

日本プライマリ・ケア連合学会
第15回 九州支部総会・学術大会

大会誌



と き：令和2年2月22日(土)・23日(日)

と ころ：ホルトホール大分



**日本プライマリ・ケア連合学会第15回九州支部総会・学術大会
大会誌**

日本プライマリ・ケア連合学会第15回九州支部総会・学術大会

メインテーマ：「九州でその人を支える ～総合診療としての複雑困難事例への挑戦～」

日時：2020年2月22日（土）～2020年2月23日（日）

会場：J:COMホルトホール大分

大会長：宮崎 英士（日本プライマリ・ケア連合学会 大分県支部支部長、大分大学医学部 総合診療・総合内科学講座 教授）

後援：一般社団法人 大分県医師会

一般社団法人 大分県歯科医師会

公益社団法人 大分県薬剤師会

公益社団法人 大分県看護協会

一般社団法人 大分県医療ソーシャルワーカー協会

特定非営利活動法人 大分県介護支援専門員協会

一般社団法人 大分の地域医療を守る会

参加者：266名

参加者内訳：医師185名、医師以外の医療スタッフ 52名、研修医・学生29名

参加費：医師：5,000 円/医師以外の医療スタッフ：2,000 円/研修医・学生：無料

認定単位：

日本プライマリ・ケア連合学会認定研修講座【2/22】 2 単位

日本プライマリ・ケア連合学会認定研修講座【2/23】 4 単位

日本プライマリ・ケア連合学会認定薬剤師指定講座【2/22】 1 単位

日本プライマリ・ケア連合学会認定薬剤師指定講座【2/23】 3 単位

懇親会：

COVID-19の感染拡大への配慮から中止とした。

託児：

委託先：社会福祉法人グリーンコープふくしサービスセンターたんぽぽ

利用者なし

【大会報告】

日本プライマリ・ケア連合学会第15回九州支部総会・学術大会は、2020年2月22日（土）、23日（日）の2日間にわたり、J:COMホルトホール大分（大分市）を会場として開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される難しい状況でしたが、熟慮の結果Annual meetingとしての重要性を鑑み、懇親会は中止としましたが、感染予防策を講じた中で学術大会の開催に踏み切りました。そのようななか266名の方にご参加いただいたことに感謝申し上げます。さて、大会初日の開会式では本学会理事長の草場鉄周先生、九州支部長の秦喜八郎先生、そして来賓として大分県医師会長の近藤稔先生にご登壇いただき、ご挨拶と激励のお言葉をいただき、本学術大会はスタートしました。次いで、第1会場では教育講演2題と特別講演が行われましたが、沢山の方に聴講いただき、活発な質疑応答が繰り広げられました。なかでも草場理事長が講演「近未来の総合診療の展望」のなかで、総合診療が日本の社会の中で果たすべき役割、そして学会が進もうとする方向性を明確に示されたところは会員の皆が心強く感じたものと思われます。一方、学生企画ワークショップは高齢者を支える地域資源をテーマに、謎解きゲームという斬新な手法を用いて学生と多職種の皆さんが共に学びを深めました。第2日目は本学術大会のテーマ「九州でその人を支える～総合診療としての複雑困難事例への挑戦」のなかのキーワードである“複雑困難事例”を基調講演、シンポジウム1、2、ワークショップ1、2で追及していただきました。内容は、新たな診療モデルの提示、ポリファーマシー・誤嚥・転倒に関する治療と予防のエビデンス、多職種によるグループワーク、多職種連携での取り組み、教育の困難事例など多岐にわたるもので、それぞれ多くの参加者を得て、活発な議論が展開されました。ランチタイムセッションは、各自お弁当持ち込みで、ご不便をおかけしましたが、最近のトピックスである“診断エラー”と“健康の社会的決定要因（SDH）”を学ぶ場となり、非常に盛況でした。また、キャリアカフェにも多くの専攻医、指導医が集結し、熱心な討論が行われていました。今回、学術大会と名称変更されたことで、一般演題の充実を掲げていましたが、22演題の応募をいただきました。何れも質の高い発表で活発な質疑応答がなされました。学生セッションの発表は何れも素晴らしいものでしたが、審査の結果最優秀賞1名と優秀賞1名に表彰状が渡されました。第4会場には家庭医療、総合診療研修施設よりご提供いただいたポートフォリオと研修プログラムを展示させていただき、多くの方に訪れていただきました。

多くの皆様に支えられて、第15回九州支部総会・学術大会は盛会のうちに終了しました。

第15回九州支部総会・学術大会 大会長 宮崎英士

■大会の様子

【大会プログラム第1日目】

○開会式



大会長の大分県支部長宮崎英士より開会が宣言された。本学会理事長の草場鉄周先生、九州支部長の秦喜八郎先生、そして来賓として大分県医師会長の近藤稔先生にご登壇頂き、ご挨拶と激励のお言葉を頂いた。

○教育講演 1

『プライマリ・ケアが支える心不全緩和ケア』

座長：小野 隆宏（医療法人優心会ハートクリニック）

演者 柏木 秀幸先生（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

参加者数：67名



概要と感想：高齢化が著しい日本で、がん領域を主として発展した緩和ケアが、疾患によらず提供されるように整備が始まった。このうち、心不全については診療報酬にも収載されたが、その現状やプライマリ・ケアがいかにかかわっていくべきかなどを講演頂いた。心不全ケアで求められるポイントでは、ニーズに気づくことや、いかにマネジメントしサポートしていくかが重要である。またプライマリ・ケア診療の何気ない患者さんとのやりとりから、価値観の気づきやACPへの促しなどきっかけをつくることをアドバイス頂いた。



○教育講演 2

『サザエさんと総合診療の研究の話をしよう』

座長：高倉健（大分市医師会立アルメイダ病院 総合診療科）

演者：塩田 星児（大分大学医学部総合診療・総合内科学講座）

参加者数：65名



概要と感想：塩田先生自身の研究人生についての講演でした。先生の研究は、サザエさんから始まり、小学生の頃に週末どのテレビ番組が人気か調査を行ったというのが最初の研究でした。自分の常識が覆され、その結果を



証明することが喜びにつながり、以降も様々な研究を続けてられました。研究自体に対して身構える必要はなく、身近なものに常に疑問を抱くことが重要だと会場にエールを送っていました。



○特別講演

『近未来の総合診療の展望』

座長：宮崎英士（大分大学医学部 総合診療・総合内科学講座）

演者：草場鉄周（日本プライマリ・ケア連合学会／医療法人北海道家庭医療学センター理事長）

参加者数：74名



概要と感想：40年にわたる先人達の努力の結果、プライマリ・ケアや総合診療を担う専門医を養成する方策は「総合診療専門医」の創設により一つの成功を見たが、この令和の時代に「総合診療」が果たすべき役割について、改めて検討する必要があること。これまで高齢者医療や在宅医療、地域包括ケアを担ってきた総合診療医が、人口減少、病院再編などの問題とICTやAI



などの技術革新の中でどのように変容していくのか、医療計画や医師需給と絡めて、これからの総合診療のあるべき姿についてなどの講演を賜った。



○学生企画

『“謎を解け！” おばあちゃんに必要な地域資源って？』

石岩寛鷹、重田真輝、西郡椋也（大分大学医学部医学科）

衛藤祐樹（大分大学医学部総合診療・総合内科学講座）

本村和久（沖縄県立中部病院総合診療科）

高田文子（由布市地域包括支援センター）

参加者数：12名

概要と感想：「地域医療を学ぶ、活用の仕方を考える」をテーマにした、学生らしいユニークな会であった。チームを作り隣人・民生委員などのブースを巡る、web上のアンケート結果がスクリーンに映し出されるなど、面白い仕組みが盛りだ

くさんであった。今回、タイの家庭医も参加され、タイでは隣人アプローチがごく当たり前なようで、隣人の家族構成にも着目していた点が面白かった。学生～コメディカル、ベテラン医師まで様々な参加者で大盛況であった。



【大会プログラム第2日目】

○基調講演

『Expert Generalist Practiceとプライマリ・ケアの新しいパラダイム』

座長：内田一郎（医療法人博愛会別府中央病院）

演者：藤沼康樹（医療福祉生協連家庭医療学開発センター）

参加者数：72名

概要と感想：現代日本における健康問題の性質と構造は、劇的に変化している。特に医師は、複雑事例、多疾患併存、下降期慢性疾患、完全未分化健康



問題などへの対応が求められるとし、その本質や対応について解説があった。多

疾患併存については、いくつかの慢性疾患が併存し、多科でケアに当たるが、その反面中心となる診療科があいまいでケアが不足する。多疾患併存状態の患者では、必ずしも専門科の治療ではなく、患者のCapacityと治療負担のバランスが重要と説明された。話の最後では、家庭医、病院総合医の価値の統合が今後の慢性疾患をみる上で重要であると講演された。



○シンポジウム1

『プライマリ・ケアの困難事例 ～治療と予防のエビデンス～』

座長：多胡雅毅（佐賀大学医学部附属病院総合診療部）

堀之内登（大分赤十字病院 総合診療科）

参加者数：92名



概要と感想：本シンポジウムでは、プライマリ・ケアの現場で経験するポリファーマシーや転倒、誤嚥に関するエビデンスや各施設での取り組みが紹介された。

初めに、津久見市医師会立津久見中央病院総合診療科の堤大輔先生より、「明日から取り組むポリファーマシー対策」と題し、ポリファーマシーの定義や、必ずしも薬剤数の多さだけが問題なのではないこと、この概念におけるガイドラインに沿ったエビデンスの紹介、自施設での取り組みの紹介やかかりつけ医との情報共有の困難さなどが示された。

次に、社会医療法人同心会古賀病院内科の松浦良樹先生より、「誤嚥性肺炎診療に困難を感じるヒト、感じなくなったヒトのためのUp To Date」と題し、誤嚥性肺炎という疾患は併存症や事前指示の問題、介護療養を巻き込む事案となり定型化が困難で複雑性の高い事例が多いことが示された。抗菌薬使用の考え方やエビデンス、絶食管理の是非など慣例で行われてきた対処について、振り返る機会となった。



最後に、佐賀大学医学部附属病院総合診療部の香月尚子先生より、「転倒予測式の開発～エビデンスの実用と評価」と題し、転倒予防のリスク評価における独自のアセスメントシートの開発により、簡便さと精度に重きを置いた新たな評価尺度が示された。施設にマッチした評価シートを用いることが有用であることも示された。



どのセッションも会場からの質問も多く、活発な議論が行われていた。

○ワークショップ①

『多職種で挑む複雑困難事例 ～職種間の理解をみんなで一緒に深めませんか？』

司会：龍田涼佑（大分大学医学部附属病院 薬剤部）

江口幸士郎（今立内科クリニック）

山本恭子（大分大学医学部 総合診療・総合内科学講座）

後藤智美（大分県立看護科学大学 大学院）

中島美紀（キムラ薬局）



参加者数：10名

概要と感想：多職種連携の難しさを参加者から提示された事例を基にフレームワークに沿って検討し、その背景にある要因や介入をグループ毎に議論した。医師、薬剤師、看護師、ケアマネージャといった職種が参加し、少人数ではあったが2グループに分かれ熱心な議論が行わ

れた。構成としてグループワーク、多職種連携コンピテンシーなどの理論解説、グループワークとサンドイッチ型の構成であったことで、参加者から議論が深まりよかったとの声が聞かれた。



○総会



九州支部長の秦 喜八郎先生と事務局長の金丸吉昌先生により総会が開催された。

長年にわたりプライマリ・ケアに従事し、九州のプライマリ・ケアの充実発展に多大な貢献をされた功績で仲本内科の仲本昌一先生が表彰された。

れた功績で仲本内科の仲本昌一先生が表彰された。



○キャリアcafé~みんなでキャリアを考える～

司会：松本朋樹（飯塚病院）

参加者数：13名（指導医：8名、専攻医：5名）



概要と感想：飯塚病院 松本朋樹先生を中心に、

キャリアへの不安を抱える若手が集まり、悩みの共有や顔の見える関係を作る目的で開催された。

①家庭医・総合診療専門医について②育児と仕事の両立について③海外留学・勤務についての3つの島が作られた。専攻医同士で目標や悩みについて話すことで今後のキャリアに生かす良い刺激を受け、また専門医からは専攻医の悩みを聞くことで今後の指導環境作りなどの良い参考になったと、良い循環が生まれた。

○ランチタイムセッション①

『プライマリ・ケア診断エラー回避術』

座長：増永義則（社会医療法人関愛会佐賀関病院）

演者：林寛之（福井大学医学部附属病院救急科総合診療部）

参加者数：83名



概要と感想：日常外来において陥る可能性がある誤診と、それらの誤診の回避方法・実臨床におけるエッセンスをご教授いただいた。また、「心のある医師」としてプライマリケア医の存在の重要性が説かれた。演者の林先生のユーモラスなトークに参加者もスタッフも釘付けだった。実臨床に即座に生かせる内容も盛り込まれており、非常にわかりやすくすばらしい講演だった。

○ランチタイムセッション②

『僕たちにできることはまだある～SDHを通じてこの社会に関わり続けていく～』

座長：檜原真由美（大分県医療生活協同組合大分健生病院）

演者：小松真成（鹿児島生協病院総合内科）

参加者数：46名



概要と感想：比較的新しい概念である健康の社会的決定要因（SDH）について、わかりやすく講演していただいた。見えない因子が健康を決定づけている、それが生涯にわたって蓄積するだけでなく、実は次世代へも連鎖している、というのは驚きとともにどこか納得もいくような話だった。Kahootという4択クイズ



が随所に用いられた、双方向性が大変面白く、興味深い講演であった。社会的バイタルサインという概念を、今後の診療で意識していきたい。



○シンポジウム②

『多職種連携で取り組む困難事例』

座長：井上雅公（杉谷診療所）

伊南富士子（大分県看護協会）

参加者数：40名



本シンポジウムでは複雑困難事例に対して、多職種による取り組みを具体的な事例とともに紹介された。

初めに社会医療法人関愛会坂ノ市病院在宅医療連携センターの大塚奈々さんより「多職種連携で取り組む困難事例-サブアキュート領域、在宅領域における1事例-」と題し、入院から訪問診療の流れを支援する上で、「何のため」のケアなのか、「誰にとっての困難」事例なのかを多職種で認識を共有することの重要性が示された。

次に在宅支援クリニック えがおの山内勇人先生より「困難事例への地域での取り組み-精神科医としてのアプローチ」と題し、周囲が困難

と思っていなくても当事者は困っていない事例もあることを述べつつ、常に本人を中心に考えることの大切さを示された。困難事例に対処するには、時間しか解決できない「日薬」と誰かが見守ってあげる「目薬」の2つは、当事者や支援者にとって有用となることも示された。

最後に大分県豊後高田市健康推進課の下瀬裕子さんより「健診・医療3年未受診者訪問で把握した事例への関わりからみえた、地域保健活動における多職種連携の重要性」と題し、保健師による訪問事業を行う中で、本人や家族間だけで健康課題を抱え込んでいるケースが多いこと、病態の重症化を防ぐには関係機関のタイムリーな情報連携を行い医療・介護サービスにつなぐことの重要性が示された。

3人の発表後の総合討論では活発な議論が行われた。そこでは、医師への受診の垣根がまだ高いという認識があり、医師からコミュニティへの積極的な参加が必要であること、外来診療でも患者の違和感への気付きが大切であること、色んな職種があるからこそより円滑な連携を再認識しなければならないという意見があった。



○ワークショップ②

『教育や指導でなんかうまくいかないと思ったら ～教育の困難事例への挑戦～』

司会：藤谷直明（大分大学医学部 総合診療・総合内科学講座）

飛松正樹（にちなんファミリークリニック）

高柳宏史（熊本大学病院地域医療支援センター）

山入端浩之（ファミリークリニックきたなかぐすく）

田浦尚宏（JCHO人吉医療センター）

崎山隼人（公益財団法人慈愛会 かごしまオハナクリニック）

村田祥子（沖縄県立中部病院）

酒井達也（沖縄県立八重山病院）

石原あやか（高千穂町国民健康保険病院）

参加者数：11名



概要と感想：教育の困難事例についてワークショップが行われた。

教育の困難事例の原因としては、学習者だけでなく、指導医やシステム、プログラム、さらには指導医と学習者の組み合わせも問題となる。そのため、問題学習者などと言わずに、Difficult teaching encounterと表現する。困難事例が発生した際の対応についてレクチャーがあり、その後、仮想の症例をもとに症例検討が行われた。経験豊富な参加者も多く、深い議論が行われた。

○一般演題(午前のセッション)

セッション①（学生発表）

座長：松井邦彦（熊本大学医学部病院地域医療・総合診療実践学寄附講座）

評価者：大野每子（唐津市民病院きたはた）

中桶了太（長崎大学病院へき地病院再生支援・教育機構／平戸市民病院内科）

中道聖子（長崎大学病院総合診療科）

吉村学（宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座）

セッション②（困難事例）

座長：和泉泰衛（国立病院機構長崎医療センター総合診療科・総合内科）

セッション③（臨床）

座長：川妻由和（琉球大学医学部附属病院 沖縄県地域医療支援センター）

参加者数：30名

概要と感想：セッション1は学生発表、セッション2は困難事例の発表でした。セッション1では学生時代の海外留学経験が医師のキャリア形成にもたらす影響や、在宅医療とACPの現状と課題の調査など多種多様な興味深い内容の発表が行われ、セッション2では若手医師から診療に非協力的な患者への対応に苦慮した症例など様々な困難症例について発表が行われ、各々の発表に対して非常に活発な議論が行われました。

なお、学生セッションでは評価者の審査のもと、最



優秀賞と優秀賞が選ばれ、最優秀賞を大分大学医学部医学科の重田真輝さんが、優秀賞を鹿児島大学医学部医学科の満仁美さんが受賞された。

○一般演題（午後のセッション）

セッション④（研究）

座長：向原圭（久留米大学医療センター総合診療科）

セッション⑤（臨床）

座長：松田俊太郎（宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座／串間市民病院総合内科）

参加者数：30名

概要と感想：セッション4は研究のセッションでした。地域医療実習の効果、鍼灸授業の効果、early exposureの効果の発表がありました。また、精神疾患の併存は医療費高値と関係しているとの報告もありました。セッション5は症例発表でした。抗不安薬の内服装置、超高齢者の後天性血友病A、シャクナゲ中毒の報告でした。後天性血友病Aの発表では、超高齢の患者の治療方針の決定について、臨床倫



理の4分割法を利用し総合診療医らしくアプローチできた症例でした。

最終日の最後でしたが、会場からの質問も活発であり、有意義なセッションでした。

○展示企画

参加者数：同会場で開催のキャリアカフェも含め、20人程度

① KOPe企画 「あの時のポートフォリオ、今どうなった？」



概要・感想：九州・沖縄をオンラインでつなぐオンライン勉強会(KOPe)で作成されたポートフォリオ(PF)を展示し、専攻医および指導医が他のプログラムのPFを閲覧することでPF作成/指導の支援とするために本企画を開催した。展示されたPFをもとにディスカッションや他プログラム指導医からの指導が行われるなどしており、有意義な企画であったと考えている。

② プログラム紹介

概要・感想：例年通り11施設と多くの施設・プログラムからプログラム紹介のポスター展示があった。プログラム指導医が互いの施設の様子を注意深く観察している様子が印象的であった。

○閉会式



■プログラム委員

阿部 航 （大分大学医学部総合診療・総合内科学講座 准教授）

石井稔浩 （大分市医師会立アルメイダ病院総合診療科 部長）

伊東弘樹 （大分大学医学部薬剤学講座 教授）

伊南富士子 （大分県看護協会 理事）

井上雅公 （大分県医師会常任理事/松谷診療所 院長）

内田一郎 （大分県医師会常任理事//医療法人博愛会別府中央病院 理事長）

内村栄作 （大分大学医学部医学科 6 年次生）

大野繁樹 （渡辺内科医院 院長）

小野隆宏 （医療法人優心会ハートクリニック 理事長）

工藤欣邦 （大分大学保健管理センター 教授）

高倉 健 （大分市医師会立アルメイダ病院 副院長）

堤 大輔 （津久見市医師会立津久見中央病院内科/家庭医療専攻医）

檜原真由美 （大分県医療生活協同組合大分健生病院 理事長）

藤谷直明 （医療法人宮崎医院 副院長）

増永義則 （社会医療法人関愛会佐賀関病院 理事長）

宮崎英士 （大分大学医学部総合診療・総合内科学講座 教授）